

# 森里海に学ぶ

## 大正大と三陸の連帯

- 7 -



天野 礼子さん

### ●サイン付けて

3・11東日本大震災の直後に協力をいただいで、中学生たちに準備していた卒業式を取りちが自分たちの本箱を作った。

その中で昨秋には清水建設中学生たちは、お正月のうちに、読んでくれただろうか？

### ●3月末で廃校

生徒だけでなく教職員の皆さんへも贈ったのは、戸倉中

### ●学び生かして

日本は今、500年向こうまでの活断層活動期に入っているのだそうだ。

なかった苦労や、帰りも早く前講座」があった日は、中学生たちが緊張して、先生が冗談を言われてもクスリとも笑わなかった(普通の中学生ならざわざわしたり、落ちつきなくそわそわしたりするものです)。まるで先生の一言一言を聞き漏らすまいとしているかのようにな…。

私は「こんな中から、日本をリードしてゆく人物が必ず生まれるにちがいない」と思った。「艱難(かんなん)汝(なんじ)を玉とす」と。

3年生たち。卒業しても、戸倉中で学んだことを生かして、成長していつてくださうね。いつも見守っていますよ、遠くから。

# 本と共に成長を見守る

やめて宮城県南三陸町へボランティアに入った大正大。私たちが「日本に健全な森をつくり直す委員会」も昨年3月からそれをお手伝いし、

が3月いっぱいまで廃校になり、生徒も教職員も寂しくなるだろうなと考えたからだった。「戸倉中の皆さんへ」と、私はサインした。大人になった、戸倉中学生だった子どもたちは、以前より早起きして

志津川中学校の校舎で学んでいる戸倉中学校の全校生徒43人に「出前講座」を行って

志津川中へ通わなければなら

東北での余震も続いているし、首都周辺でも地震は頻発している。日本列島に住んでいるかぎり私たちは、地震による被害や、被災地をお手伝いすることを宿命としなければならぬのだらう。

大正大(東京)が宮城県南三陸町で行った出前講座、東京で開く公開講座の内容を担当講師がリレー形式で月1回報告します。同大と河北新報社との連携事業の一環です。